

にほんご よむよむ文庫 レベル 3

か っ ぶ ぬ ー ど る      か ら お け      う お ー く ま ん  
カップヌードル／カラオケ／ウォークマン

に ほん      う      せ かい  
～ 日本で生まれて世界へ ～

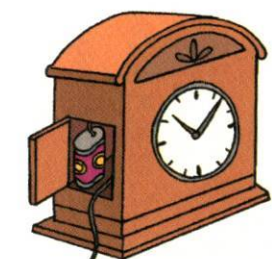
作（さく）      ： 川本 かず子（かわもと かずこ）  
栗野 真紀子（あわの まきこ）

挿絵（さしえ）      ： 宇田川 のり子（うだがわ のりこ）

監修（かんしゅう）： NPO 法人日本語多読研究会（にほんご たどく けんきゅうかい）

にほんう ゆうめい  
日本生まれの有名なもの

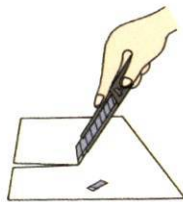
せかいじゅう ひと つか なか にほんう  
世界中の人たちが使っているものの中に、日本生まれのものがいろいろあります。



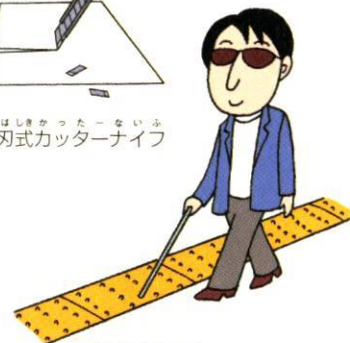
かんでんち  
乾電池



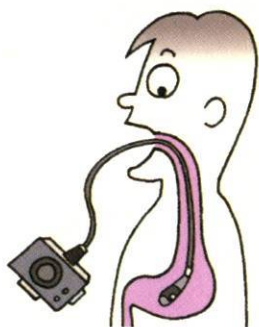
カップヌードル



おはしきかッターナイフ  
折る刃式カッターナイフ



でんじあんく  
点字ブロック



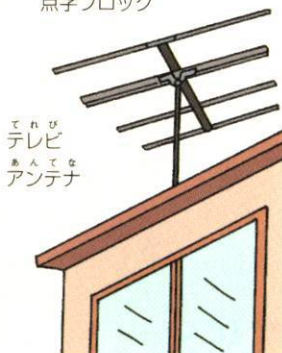
いかめら  
胃カメラ



うおーくまん  
ウォークマン



からおけ  
カラオケ



テレビ  
あんてな  
アンテナ

いくつ知っていますか？

これから、カップヌードル、カラオケ、ウォークマンが、どのようにして生まれたか、紹介しましょう。

かっぶぬーどる  
カップヌードル

お湯があれば、いつでもどこでも食べられるカップめん。

日本では、1年に30億食も食べられています。みなさんも食べたことがあるでしょう。

世界で一番初めにできたカップめんが、「カップヌードル」です。





## ある た 歩きながら食べる！

1971年7月、東京の銀座に、最初のハンバーガーの店「マクドナルド」ができました。同じころ、銀座で、「歩行者天国」が始まりました。歩行者天国は、車が入れないので、人が車道も歩けます。歩きながら食事をしたことがなかった日本人が、このとき初めて、道を歩きながらハンバーガーを食べたのです。若い人たちは、それがとても「かっこいい！」と思いました。



この年の9月、最初のカップめん「カップヌードル」が誕生しました。そして、歩行者天国でも売られて、若い人たちが



カップヌードルを歩きながら食べました。スキー場、スケート場、海や山などでもよく売れました。



## ちきんらーめん せかい チキンラーメンを世界へ

「カップヌードル」を作ったのは、「日清食品」という会社の社長・安藤百福（1910～2007年）でした。

安藤は、「カップヌードル」を作る前、1958年に、世界で最初のインスタントラーメン、「チキンラーメン」を作りました。

これは、井にめんとお湯を入れて作るものでした。



安藤は、このチキンラーメンを世界中の人に食べてもらいたいと思っていました。そして、1966年、アメリカへ行きます。このとき見たあることから、カップヌードルが生まれたのです。



## カップヌードルが生まれるまで

### 丼のいないラーメン

チキンラーメンを買ってもらおうと思って、安藤が、アメリカのある会社に行った時のことです。アメリカ人の社員が、チキンラーメンを紙コップに入れて、フォークで食べていました。それを見て、安藤は思いました。

—— 丼や箸を使わないで食べられるラーメンにすれば、世界で売れるぞ！ ——



## 入れ物の材料は、発泡スチロール

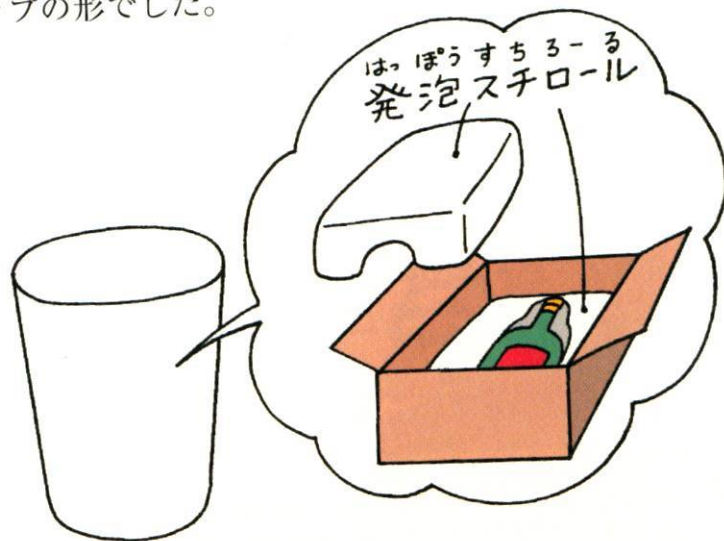
—— 入れ物にめんが入っていて、それにお湯を入れたら、そのまま食べられる。そんなラーメンが、どうやってできるだろう？ ——

安藤は、初めに入れ物を考えました。

材料は、いろいろ考えて、熱いお湯を入れても熱くならない、そして軽い「発泡スチロール」に決めました。

### 形は、紙コップ

形は、片手で持てて、倒れにくいものが選ばれました。それは、紙コップの形でした。



## このふたがいい！

ある日のことです。安藤は飛行機の中で、「カップめん」のふたを見つけました。それは、ナッツの入れ物のふたでした。



このときもらったナッツは、大阪の「インスタントラーメン発明記念館」に今でも大切に置いてあります。



写真提供：日清食品株式会社

「カップめん」のカップの誕生です。ここまで、2年半もかかりました。

## めんは、入れるんじゃない！

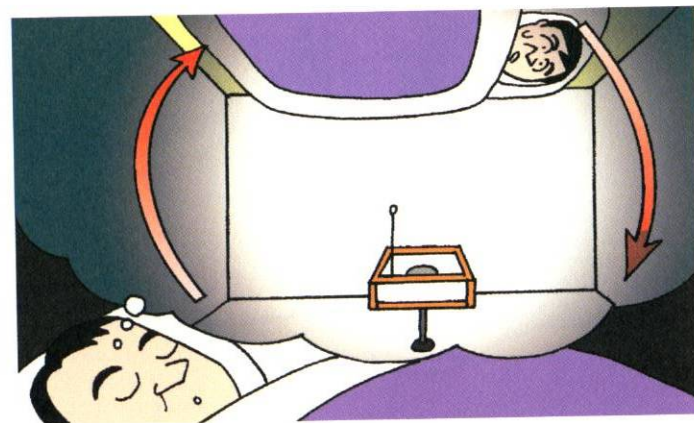
次は、めんをカップに、どうやって入れるか考えました。

入れためんが動くと、トラックで運ぶときにめんが壊れてしまいます。安藤は、めんをカップの中で止めて、下まで入れなければいいと思いました。これは、とてもいい考えでしたが、機械で、めんを壊さないで入れるのは、とても難しいことでした。

安藤は毎日、昼も夜も、めんの入れ方を考えました。

ある夜、寝ていた安藤は、部屋が回ったように思いました。そのとき、答えがわかったのです。

「そうだ！めんをカップに入れるんじゃない。めんにかぶをかぶせるんだ！」



## さあ、できました！

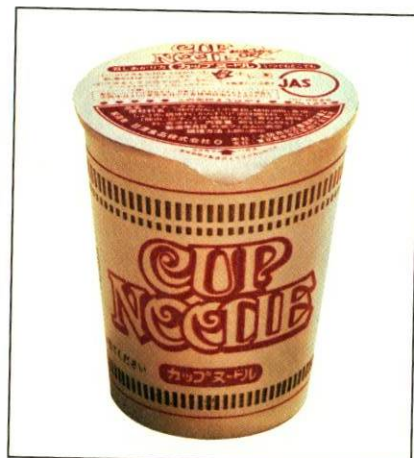
日本人は、食べ物<sup>たべもの</sup>の色<sup>いろ</sup>を大切<sup>たいせつ</sup>にします。安藤<sup>あんどう</sup>は、カップめん<sup>かっぶめん</sup>の中に、赤いエビ<sup>あかえび</sup>を入<sup>い</sup>れたいと思<sup>おも</sup>いました。

きれいな色<sup>いろ</sup>のまま入<sup>い</sup>れられるエビ<sup>えび</sup>を、やっ<sup>い</sup>と見<sup>み</sup>つけました。

赤いエビ<sup>あかえび</sup>と黄色い卵<sup>きいろたまご</sup>、緑<sup>みどり</sup>の野菜<sup>やさい</sup>、茶色<sup>ちやいろ</sup>の肉<sup>にく</sup>……「カップヌー<sup>かっぶぬー</sup>ドル」の誕生<sup>たんじょう</sup>です。作<sup>つく</sup>り始<sup>はじ</sup>めてから、5年<sup>ねん</sup>かかりました。



写真提供：日清食品株式会社



写真提供：日清食品株式会社

今<sup>いま</sup>では、世界<sup>せかい</sup>中<sup>じゅう</sup>の人<sup>ひと</sup>が、カップめん<sup>かっぶめん</sup>を食<sup>た</sup>べています。

忙<sup>いそ</sup>しくて時<sup>じ</sup>間<sup>かん</sup>のな<sup>い</sup>今<sup>いま</sup>の生<sup>せい</sup>活<sup>かつ</sup>に、カップめん<sup>かっぶめん</sup>はとて<sup>べん</sup>り<sup>り</sup>な食<sup>た</sup>べ<sup>べ</sup>物<sup>ぶつ</sup>です。こ<sup>の</sup>カッ<sup>か</sup>プ<sup>ぷ</sup>ヌー<sup>ぬー</sup>ドル<sup>どる</sup>が売<sup>う</sup>れると思<sup>おも</sup>った安藤<sup>あんどう</sup>の考<sup>かんが</sup>

えは、正<sup>ただ</sup>しかっ<sup>た</sup>た<sup>の</sup>です。



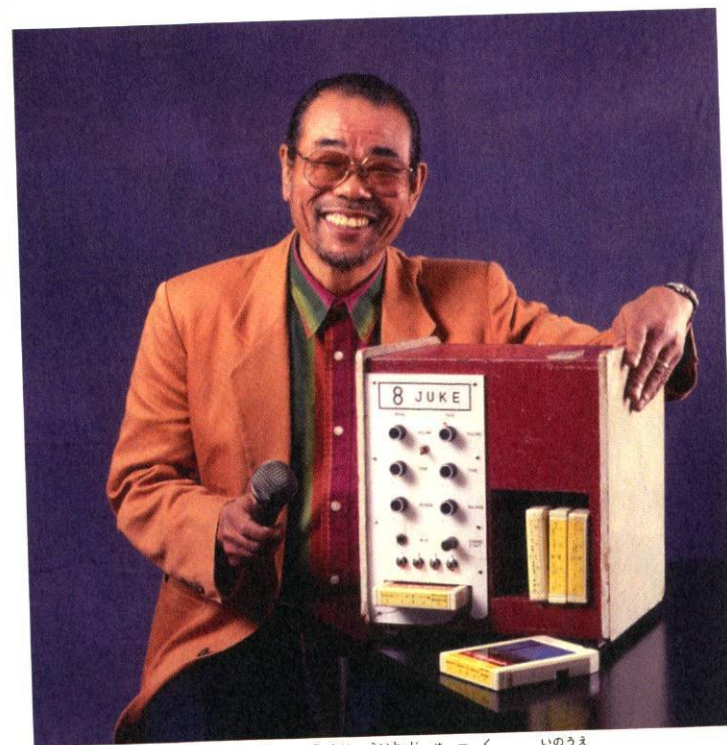
# カラオケ

「カラオケ」は、今では、世界中の人の楽しみになっています。



## カラオケの誕生

カラオケは、1971年、井上大佑という人が、31歳のとき考えました。どのようにして、カラオケは生まれたのでしょうか。井上さんに会って、お話を聞いてきました。話し好きで、明るくて温かい人でした。



初めて作ったカラオケの機械「8ジューク」と井上さん

写真提供：株式会社エス・アイ・ビー

🎤 こんなに世界に広まったカラオケを作ったのですから、大金持ちになったでしょう？

井上：大金持ちにはなりませんでしたが、少しはお金持ちになりましたよ。特許を取っていたら大金持ちになっていたのに、とみんなに言われます。

🎤 どうして特許を取らなかったのですか？

井上：特許のことを知らなかったし、知ったあとも、特許というのは、今までにない新しいものを作ったときに取るものだと思っていました。僕は、それまでにあった機械を集めて作っただけですから。

🎤 もし特許を取っていたら……？

井上：僕が特許を取っていたら、みんな僕にお金を払わなければいけません。いろいろな会社が新しいカラオケの機械を作れなくて、カラオケは広まっていなかったんじゃないでしょうか。だから、取らなくてよかったと思っています。

カラオケの機械を作ったころ、井上さんは、神戸のクラブでオルガンを弾いていました。

🎤 どうして、カラオケを作ろうと思ったのですか？

井上：そのころ、東京や大阪のクラブには、楽器を弾きながら歌を歌う人がいました。お客は、それを聞くだけでした。でも、神戸のクラブでは、お客が歌うのです。僕は、そこでお客のためにオルガンを弾いていました。



あたら うた つく おぼ たいへん  
新しい歌がどんどん作られるから、覚えるのが大変。

「もう新しい歌を作らないでくれ!」と思っていたんです。

そんなとき、ある会社<sup>かいしゃ</sup>の社長<sup>しゃちょう</sup>から、「会社<sup>かいしゃ</sup>の旅行<sup>りょこう</sup>に一緒に<sup>いっしょ</sup>に来てくれないか。私がパーティーで歌うとき、オルガン<sup>おるがん</sup>を弾いてほしいんだ」と言われました。僕<sup>ぼく</sup>がオルガン<sup>おるがん</sup>を弾くと、下手な歌<sup>うた</sup>も上手<sup>じょうず</sup>に聞こえるからです。でも、その日はクラブの仕事の日。行くことはできない。そこで、オルガン<sup>おるがん</sup>を弾いて、それをテープ<sup>てーぷ</sup>に入れて渡しました。旅行<sup>りょこう</sup>から帰った社長<sup>しゃちょう</sup>は大喜びで、「ありがとう。とても上手<sup>じょうず</sup>に歌えたよ」と言ってくれました。そのときです。「テープ<sup>てーぷ</sup>があれば、いつでもどこでも歌えるから、僕<sup>ぼく</sup>がそこにいなくてもいい。たくさんのテープ<sup>てーぷ</sup>がはいった機械<sup>きかい</sup>があればいいんだ」と思ったんです。

そして井上<sup>いのうえ</sup>さんは、世界で最初のカラオケの機械<sup>きかい</sup>「8 ジューク」<sup>えいとじゅーく</sup>を作りました。11台しか作りませんでした。その後、カラオケの機械<sup>きかい</sup>がほしいという店<sup>みせ</sup>が多くなって、200台も作るようになりました。

いまでは、いろいろな会社<sup>かいしゃ</sup>が、新しいカラオケの機械<sup>きかい</sup>をどんどん作って、カラオケは世界中に広まっています。

あたら から お け き かい  
新しいカラオケの機械  
ぶれみあだむ  
「PremierDAM」



写真提供：株式会社第一興商



30年近く経った1999年、アメリカの雑誌「TIME」は、  
8月23日号『20世紀の世界を変えたアジアの20人』の  
一人に、井上さんを選びました。

日本人は6人。昭和天皇、トヨタ自動車の豊田英二、映画監督  
の黒沢明、ソニーの盛田昭夫、デザイナーの三宅一生、そして、  
カラオケの井上大佑です。

井上さんは、「アジアの夜を変えた男」と紹介されました。



もりたあきお  
盛田昭夫



いのうえだいすけ  
井上大佑



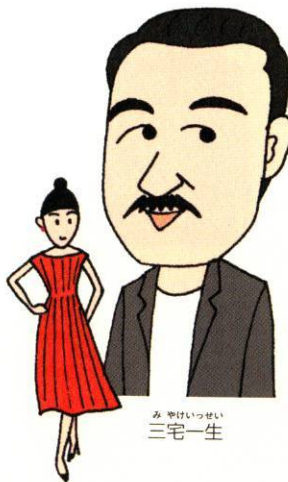
くろさわあきら  
黒沢明



とよだえいじ  
豊田英二



しょうわたんのう  
昭和天皇



みやけいっせい  
三宅一生

2004年、井上さんは、「みんなが笑ってしまうような、変  
なものを作ったり考えたりした人」に贈られるイグ・ノーベ  
ル平和賞を受賞しました。カラオケが、下手な歌でも怒らな  
いで聞く「平和」を作ったからです。

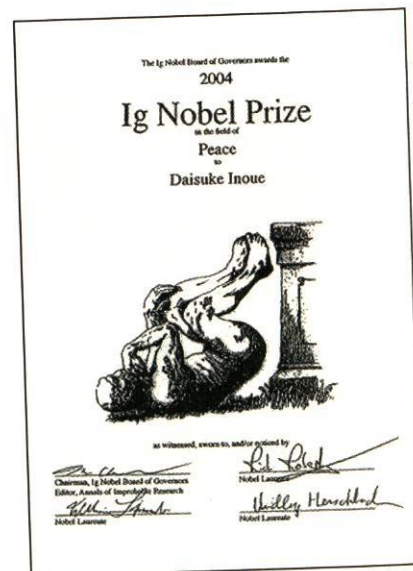
アメリカのハーバード大学で授賞式があったそうですが、

そのときのことを話してください。

井上：本当のノーベル賞受賞者から、メダルをもらいました。

アルミの皿で作ったものでした。

賞状と箱も、もらいま  
した。箱には、ハーバード  
大学の空気が入っていま  
した。僕は授賞式で歌を  
うたったのですが、うた  
ったのは、僕が初めてだっ  
たそうです。みんな、とて  
も喜んでくれました。



いのうえ しょうじょう  
井上さんがもらった賞状

写真提供：株式会社エス・アイ・ビー



🎤 <sup>うた</sup> 歌ったのは、何の歌ですか？

<sup>いのうえ</sup> 井上： <sup>こ</sup> コカ・ <sup>こーら</sup> コーラの <sup>うた</sup> 歌 (「I'd like To Teach The World To Sing (In Perfect Harmony)」) です。 <sup>あめりか</sup> アメリカでは、だれでも知っ <sup>し</sup> ている <sup>うた</sup> 歌です。

「すばらしい <sup>おんがく</sup> 音楽を世界中に……」という <sup>うた</sup> 歌なんです。

<sup>いのうえ</sup> 井上さんは、 <sup>にほん</sup> 日本へ <sup>かえ</sup> 帰ってから、 <sup>せわ</sup> お世話になった人たちに <sup>てがみ</sup> 手紙を書きました。

「 <sup>わたし</sup> 私の <sup>こ</sup> 子ども、 <sup>から</sup> 『カラオケ』 が <sup>おけ</sup> いただいた <sup>へい</sup> 『平和賞』 を、 <sup>いっしょう</sup> 一生の <sup>たからもの</sup> 宝物 <sup>おも</sup> と思って、 <sup>たいせつ</sup> 大切にしています」

<sup>いのうえ</sup> 井上さんのカラオケへの <sup>きも</sup> 気持ちがとてもよくわかります。

<sup>いま</sup> 今は、 <sup>から</sup> カラオケの <sup>しごと</sup> 仕事はしていませんが、 <sup>ひと</sup> 人のために <sup>なに</sup> 何かを <sup>す</sup> することが好きで、 <sup>しごと</sup> いろいろな <sup>い</sup> 仕事をしてきた <sup>いのうえ</sup> 井上さん。

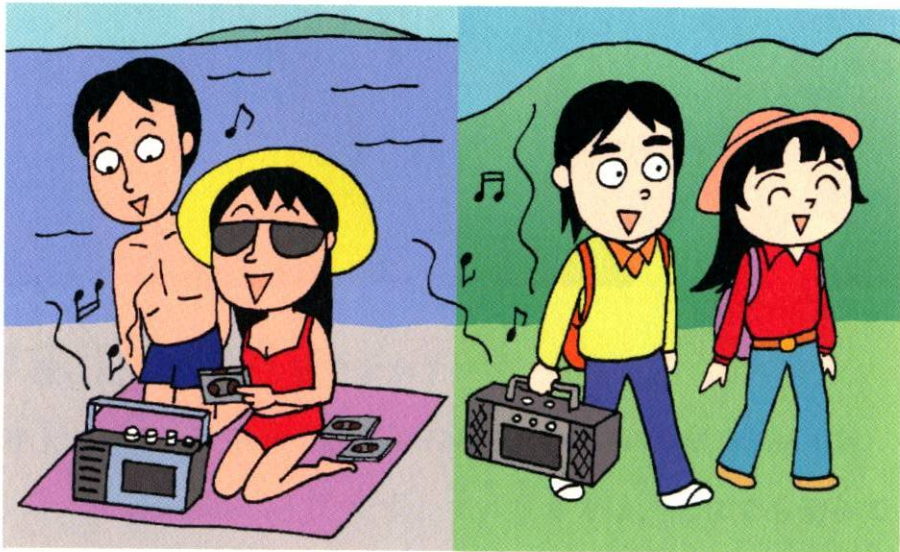
「 <sup>いぬ</sup> 犬や <sup>ねこ</sup> 猫などの <sup>べつと</sup> ペットと <sup>いっしょ</sup> 一緒に <sup>はい</sup> 入れる <sup>ろうじん</sup> 老人ホーム ( <sup>ほ</sup> 老人たちが <sup>いっしょ</sup> 一緒に <sup>く</sup> 暮らすところ) を <sup>つく</sup> 作ること」、それが <sup>さいご</sup> 最後の <sup>ゆめ</sup> 夢だと <sup>はな</sup> 話してくれました。 <sup>ゆめ</sup> きっと、 <sup>ほんとう</sup> 夢は <sup>ほんとう</sup> 本当になるでしょう。

## ウォークマン

皆さん、音楽は好きですか？

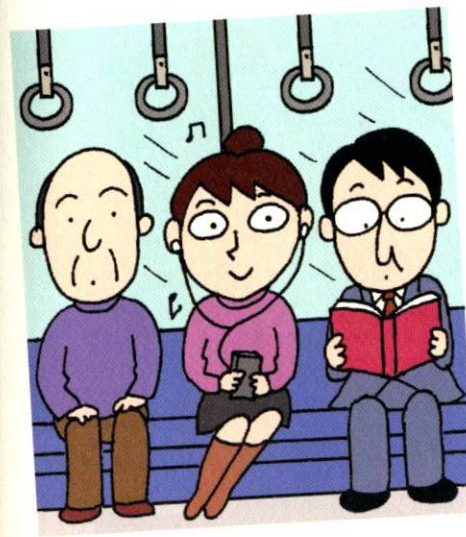
音楽が好きな人なら、かばんやポケットに、いつも「音楽」が入っているでしょう。

いつでもどこでも音楽が聞ける小さなプレーヤーは、今では多くの人が持っています。でも、これは1979年に、ソニーという会社が「ウォークマン」を作ってからのことです。



ウォークマンができる前

それまでは、音楽が好きな若い人たちは、大きなカセットプレーヤーを持って、遊びに行かなければならなかったのです。いい音は、家のステレオでしか聞けませんでした。ある歩きながら音楽が聞けるウォークマンに、世界中の人が大喜びしました。そして、あっという間に世界に広まりました。



ウォークマンができてから、音楽の聞き方が変わった





## もっと小さく、もっと軽く！

ソニーは、ウォークマンが生まれる前から、小さなテレビやラジオなど、新しい電気製品をいろいろ作ってきました。

1977年には、小さなカセットテープレコーダー「プレスマン」を作りました。

ソニーを作った名誉会

長・井深大（1908

～1997年）は、外

国に行くとき、いつも

ステレオの音が聞ける

大きなテープレコー

ダーとヘッドホンを

も

持っています。

ある日、井深は社員に言いました。  
「これでは重くて疲れるから、『プレスマン』から録音する部分を取って、ステレオの音が聞けるプレーヤーに作りかえてくれ」



小さなカセットテープレコーダー「プレスマン」

写真提供：ソニー株式会社

その通りに社員が作りかえた「プレスマン」を、井深はとても喜びました。ソニーを作ったもう一人の会長・盛田昭夫（1921～1999年）も、それを借りて聞いてみました。

—— 小さいのにいい音だ！ これなら、どこへでも持って一人で聞ける。これはいい！ ——



盛田は、自分の子どもたちが、家に帰ると、すぐステレオで音楽を聞くのを知っていました。

—— 音楽が好きな若い人たちに、これは売れるかもしれない！ ——

1979年2月、盛田は、高校や大学が夏休みになる前までに、新しいプレーヤーを作って売ろう、と決めました。

それは、「プレスマン」から録音をする部分とスピーカーをとってしまって、ステレオアンプを入れた、一人で音楽を聞くプレーヤーです。

最初は、「録音ができないプレーヤーなんて、誰が買うんだ？」  
「夏休みの前まで？ 時間が足りない！」と心配していた社員も、  
「どの会社も作ったことがない新しいものを作るんだ！」という気持ちで、頑張りました。4か月後に、プレーヤーは誕生しました。

値段は33,000円。

ソニーが生まれてから  
33年目だったからです。



最初のウォークマン

写真提供：ソニー株式会社



## 4つの名前の「ウォークマン」

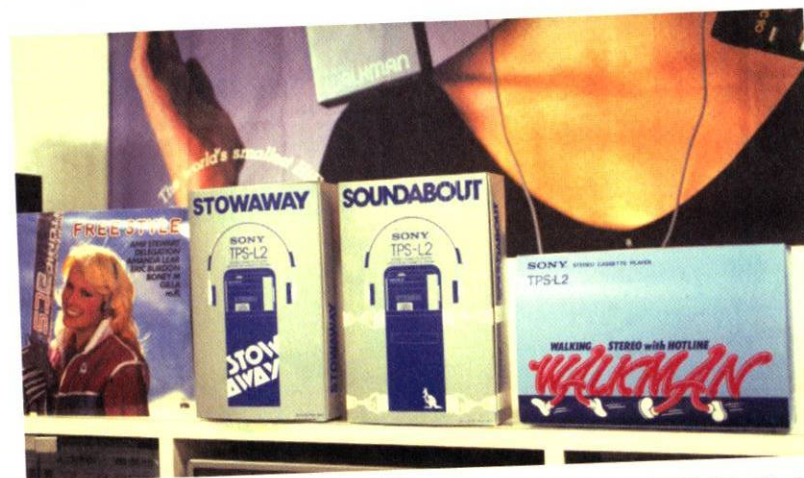
「録音ができない、音楽を聞くだけのプレーヤー」は、世界で初めての製品です。どんな名前にするかは、とても大切なことでした。

盛田が外国から帰ると、社員が、もう名前をつけていました。

それが、「ウォークマン (Walkman)」です。

盛田は、この変な英語にびっくりしました。でも、もう売る準備は全部できていたので、変えることはできません。

外国では、「ウォークマン」は、やはり変なので、他の名前になりましたが、日本での名前は「ウォークマン」になりました。



外国では、最初「FREESTYLE」「STOWAWAY」「SOUNDBOUT」だった

写真提供：ソニー株式会社



## 音楽の聞き方を変えた！

1979年7月、こうして誕生した「ウォークマン」は、最初あまり売れませんでした。考え方が新しすぎたのでしょう。しかし、8月になると、若い人たちにどんどん売れ始めて、9月には、作るのが間に合わなくなりました。

電車の中や町の中で、ヘッドホンをして、一人で音楽を聞く人たちが急に多くなりました。



みんなが「スケートボードをしながら音楽が聞ける！」と驚いた

写真提供：ソニー株式会社

外国でつけられた名前も、すぐに「ウォークマン」に変えられました。日本で「ウォークマン」を見た外国人が、自分の国に帰って、「『ウォークマン』がほしい」と言い始めたからです。世界中の人たちが、「ウォークマン」で音楽を聞き始めました。数年後、この変な英語は、フランス語や英語の辞書にも載りました。

10年後には5千万台、20年後には2億台近く売れました。70歳を過ぎた井深と60歳近い盛田が新しいことを考えなかったら……。

「ウォークマン」は、世界中の人たちの音楽の聞き方を、大きく変えたのです。